

今週のメニュー

[トピックス](#)

- 2009「子どもとためす環境まつり」に参加
- 中央区環境保全ネットワーク主催、中央区立久松小学校で開催 -

[随想](#)

オックスフォード便り（その2） - 「英国でびっくりしたこと」 -

関東学院大学 織 朱實

[お知らせ](#)

【NEW】「エコプロダクツ2009」出展のご案内

[編集後記](#)

トピックス

- 2009「子どもとためす環境まつり」に参加
- 中央区環境保全ネットワーク主催、中央区立久松小学校で開催 -

10月24日（土）に、明治座の近くにある中央区立久松小学校で「子どもとためす環境まつり」が開催されました。この環境まつりは中央区環境保全ネットワークが主催となって、中央区の共催を得て進めている地域に根ざした環境学習の機会であり、中央区の小中学校を巡って開催されている催しで、今回で6回目になります。子どもが中心のプログラムで、お母さんやお父さんも一緒に学べる展示がたくさん集められています。また、2年前から始められた「サーモンプロジェクト」では、中央区で育った子どもたちがいろいろな経験を通して成長し、大人になって戻ってきて地域を活性化して欲しいとの願いが込められた取り組みで、出展する関係者の共感を得ています。



「中央区環境保全ネットワーク」ブース

当日はうす曇にもかかわらず、子どもたちや父兄の方々が多数集まり、9時半に、実行委員長の川名代表から開会の挨拶があり、続いて宮本中央区環境部長や酒井校長からも挨拶がありました。参加した企業・団体は35に上り、校舎の1階から3階までの教室や廊下、4階の体育館、校庭や校舎前の歩道に、環境学習や福祉体験ができる展示場がそれぞれに展開されていました。



「NPO法人 元気ネット」ブース

また、会場のいたるところに、久松小学校の4年生が描かれた「子どもとためす環境まつり」のポスター作品が色とりどりに展示され、来場者の目を楽しませてくれました。

当協会は、「NPO法人持続可能な社会を作る元気ネット」の協力を得て、3階の教室前に設置されたブース「さあ今日から実践！3R」の中で、プラスチックの話やリサイクルの事例を紹介しました。ブースには、矢田区長や環境部長も来られて、フラクタル日除けのリサイクル品の展示を熱心に見て頂きました。子どもたちも親子で訪れ、3Rの説明とともにパンフレットや塩ビのリサイクル消しゴムを配りました。



「VEC」コーナー

お昼には、世話役の方々が心のこもったおにぎりやウィンナー野菜入りのポトフを準備して頂き、出展者たちがホッとする時間を楽しむことができました。出展の中では、築地の東京魚商協同組合による「まぐろの解体ショー」、王子製紙の「古紙から八ガキを作ろう!」、中央区環境部の「中央区のお魚を釣ろう」などに来場者の人気が集まっていました。午後3時には、輿石副実行委員長から閉会の挨拶があり、全員の手締めで閉会されました。



今回の催しに参加したお陰で、環境に関心のある団体や個人の方々と身近に交流を深めることができました。後日、関係者が集まって反省会が行われ、当日の様子を映像で紹介されました。良かった点、工夫改善すべき点、気が付いた点などが各出展団体から寄せられ、反省会当日も参加者の感想や意見が述べられ、主催者の熱心な活動の継続への意欲を感じるものでした。

この催しに集まれた方々は、人情味溢れる町内の方が多く、子どもたちの触れ合いを暖かく見守る地域の温もりを感じるものでした。関係者の努力も実り、新型インフルエンザの流行っている時期にあって、無事に環境まつりが終えられたことが何よりでした。

来年は月島の小学校で開催される予定で、中央区にある当協会も引き続き参加して、子どもたちの成長を見守って行きたいと考えています。(了)

随想

オックスフォード便り(その2) - 「英国でびっくりしたこと」 -

関東学院大学 織 朱實

英国オックスフォード生活も、はや3か月。「え?こんなことあるの?」と驚きの連続だった英国生活も、「・・・まあ、英国だからね。こんなものかも」と慣れてきたのか、諦めの境地に達してきたのか、微妙ですが(笑)。驚きを忘れないうちに、「英国でびっくりしたこと」のいくつかをご紹介します。

【 台所編 】

お湯の調整ができない？ 主婦なので、まず驚き発見は、台所から。ということで、一番最初に驚いたのは、蛇口からお湯と水が混ざって出てこないこと。日本では、お皿を洗うときにお湯とお水を調整するとちゃんと混ざって（調整された温度の水が）出てきますよね？英国では、熱いお湯と冷たい水が一つの蛇口から別々の水流で出てくる！このほか、お皿洗い関連で驚くのは、英国人は（というか欧州では）洗剤をつけた後、そのまま水流しをしないで拭いておしまい！これを水を大切にしている精神の表れだという人も、単にめんどくさがり屋だからだという人もいますが、さてどちらでしょう？

ラップがふにゃふにゃ？ 塩ビのメールマガジンなのでこれは絶対に触れないといけない「びっくりしたこと」。英国では、ラップがふにゃふにゃ。電子レンジにかけると、かなりの割合で溶けてしまう。その上、切り口がただの厚紙（日本だと綺麗に切るためのぎざぎざ切り口がちゃんとついていて、ぴーんと張れるのでしっかり伸ばしてすっきり切れますが）、毎回キッチン鋏で四苦八苦して切ることに・・・。



ごみを出さない食生活？これは自治体によって違うので、英国が、というよりはオックスフォードが、だと思いますが「ごみの回収が週に1回」！！しかも、普通ごみの回収は2週間に一回！！資源ごみ（PET、缶、新聞紙）のブルーボックスと普通ごみを出す週と、グリーンボックス（ガラス容器、段ボール、紙製容器）と庭ごみを出す週が交互。2週間に一度、普通ごみの代わりに庭ごみを出すとは！さすが、ガーデニングのお国柄。皆さん、週末には枝を払ったり、芝刈りをしたり、落ち葉を集めたりと忙しそう。小さい庭でも結構出るので、週一回に庭ごみを回収するならせめて週一回普通ごみを回収して欲しいです（切実！）。ディスプレイがついている家も多いので、それで生ごみが出ない、ということもあるらしいのですが、家庭での食事は簡単なものなのでそれほど生ごみが出ないからなのでしょうね。



このほか、【 生活編 】として、電球のタイプが全部違う！！日本のように嵌めるだけでなく、部屋ごとに押し回すタイプとか無理やりひっぱるタイプとか全部違う。どのタイプか、電球が切れるたびに脚立に乗って悩むこと数分（しかも、電球がよく切れるんです。（笑）とか（日本のJIS規格って本当に素晴らしいですね！）スーパーで売れた品の補充がないのは当たり前！宅急便で1日待つのはあたりまえ！電車が時間通りに来ない

のは当たり前！・・・あげればきりが無いのですが、考えてみたら、日本ほど生活のいたるところに「利便性」「効率性」の必要があるか？ですね。これが、日本の技術力であり、企業の力でもあるのですが、日常生活、どこまで便利でなければいけないのか？そこで浮いた時間や労力を何に使っているのか？



写真のように、学校や会社が終わった午後や休日には、家の裏のチャンネル(運河)をナローボート(台所・寝室がついていて何か月も生活できる縦長のボート)がゆったり行き来し、その傍らを、犬の散歩やジョキングをする人の姿が日常のオックスフォード(まあロンドンなどに比べたら田舎ということもあり)。毎週水曜日には市場が立ち、新鮮な野菜やお肉はこの日にまとめ買い！ゆったりと自分の地域での生活を楽しんでいればそれほどの利便性はいらぬ、ということでしょうか。なにがゆとりや生活の充実を生み出すのかは、国それぞれでしょうね。残りの写真は、オックスフォードならではの、プレップスクールの子供の風景とごみの回収。次回は、オックスフォードを舞台にした小説の話などをしてしたいと思います。(つづく)



前回の「オックスフォード便り(1)」は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/246/mag_246.pdf

お知らせ

【NEW】「エコプロダクツ2009」出展のご案内

「エコプロダクツ2009」が下記の要領で開催されます。
塩化ビニル環境対策協議会/塩ビ工業・環境協会にて、「身近なエコ素材、塩ビを知って、学んで、使おう！」をコンセプトとして出展いたします。

塩ビ製品展示、パネル説明、ステージ・デモンストレーションなどで、塩ビへのご理解を深めていただきたいと思います。

- ・日 時 : 2009年12月10日(木)~12日(土)
10:00~18:00(最終日のみ17:00まで)
- ・場 所 : 東京ビッグサイト(東1~6ホール)
(VEC小間番号:5042)
- ・主 催 : (社)産業環境管理協会、日本経済新聞社
- ・入場料 : 無料
- ・「エコプロダクツ2009」のホームページをご覧ください。
: <http://eco-pro.com/>

編集後記

足踏みや逆戻りを繰り返しながらも、コート姿が目立つ寒さとなってきましたね。

本号のトピックス「子どもとためす環境まつり」でご紹介している、久松小学校の生徒さんたちが描かれたポスターをご覧になりましたか？「環境」がテーマのようですが、描かれた内容は様々ですね。「地球温暖化」、「ゴミの分別」、「省エネ」、「酸性雨」。子供たちも、現在の地球環境がいろいろな問題を抱えていることを理解しているようですね。今回お伝えしたような、楽しみながら学べる「環境学習」の成果なのでしょう。素直な気持ちで地球の将来を心配し、『何とかしなくては』、『自分にできることは何か』と考えているようです。たとえ、山火事を水一滴ずつで消そうとするようなものだとしても、できることをやっていくということが大切なのでしょう。(自称ハチドリ主婦)

[ポスター（拡大）はこちらから](#)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.jp>

E-MAIL info@vec.jp
